

## 4 紙本着色一遍上人絵伝 卷第二



指 定 国重要文化財 昭和9年1月30日  
 所在地 野 沢  
 所有者 金 台 寺



この絵巻はいくつかの一遍上人に関する絵伝のうち、時宗の総本山である神奈川県藤沢市の遊行寺本（宗俊本）の系統に属し、推定鎌倉末期の写本で同類中の秀作とされている。全10巻中の第2巻目に当たり、紙本着色、詞書は墨書きで詞・絵ともに各5段からなり、幅1尺1寸余、全長60尺に余る卷子型の絵巻である。第2巻目の巻頭に佐久郡伴野荘における踊り念仏の場面が描かれているところから、宝暦7年（1757）に遊行寺から、野沢の金台寺に贈られたことがわかる。遊行寺の原本全10巻が明治44年（1911）火災のため焼失したので、模写本ながら時代も古く、描写もすぐれているので貴重な存在となり、昭和9年（1934）国宝に指定され、現在は国重要文化財になっている。

第2巻目巻頭の場面は、伴野氏の館の庭と推定される広場で、上人を中心にして17人ほどの僧侶が夢中になって踊っており、その周りには数人の男女が腰をおろして見物している。向かって左手には下人がたくましい馬の手綱を執っている。反対側には伴野氏の館の一部と推定される建物が描かれ、広間の縁端近くで10人ほどの武士が、同じく踊り念仏を見つめている。庭には鷹と犬がおり、下人が矢を作っている姿が描かれている。

この場面は、時宗の踊り念仏の祖型と、中世武将の館の一端をうかがわせるものとして重要である。